

教養学部・総合文化研究科

| | | | |
|----|-------|-------|--------|
| I | 研究水準 | | 研究 8-2 |
| II | 質の向上度 | | 研究 8-3 |

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの研究論文発表数（原著論文、著書、総説、評論、査読付き学会発表論文等を含む）は平均 2.66 件である。過去 4 年間でほぼ同じレベルを推移している。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度の科学研究費補助金の総額は外部獲得資金の 52% を占め、採択数（採択金額）は 385 件（約 9 億 5,000 万円）である。過去 4 年間の採択率はいずれの研究種目でも全国平均を上回り、平均約 63%（継続を含む）と高い。大型プロジェクトとしては、法人化以前に発足した 3 件の 21 世紀 COE プログラムがあり、そのうちの 1 件は、「共生のための国際哲学教育研究センター」としてグローバル COE プログラムに発展していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、教養学部・総合文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教養学部・総合文化研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、文理にわたる広範囲から優れた研究成果が得られている。著書『帝国と国民』、著書『漢文脈の近代』、35 億年前の古微生物の化石発見、化学反応中間体フリーラジカル種 H000 の純回転スペクトル観測、微小管分子リニアモーターとしてのダイニンの研究等は、国際的に高い評価の成果を上げている。社会、経済、文化面では、著書『靖国問題』は国内世論に大きな影響を与え、教科書『生命科学』と『理系総合のための生命科学』は国内 48 大学で採用されている。平成 19 年に開催されたミルブラッド独ザクセン州首相来日記念講演会・パネルディスカッションは新聞紙上にも取り上げられ、高い評価を受けている。また、これらの研究成果によって、多くの著名な賞が授けられている。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、教養学部・総合文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案

した結果、研究成果の状況は、教養学部・総合文化研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。